

チャレンジ・フォーラム 事例発表
「ゆめづくり地域協働プログラムによる自主的で自立した地域活動の支援」
発表自治体：呉市

【発表者】土井貴徳さん（呉市地域協働課）、力安鈴子さん（三条地区まちづくり委員会）、相原梢江さん（三条地区まちづくり委員会）、末永哲夫さん（三条地区まちづくり委員会）、檜谷清司さん（三条地区まちづくり委員会）、川崎清さん（三条地区まちづくり委員会）、山中典之さん（三条地区まちづくり委員会）、山上文恵さん（三条地区まちづくり委員会）
《順不同》

○司会：それでは、お待たせいたしました。呉市の事例発表でございます。「ゆめづくり地域協働プログラムによる自主的で自立した地域活動の支援」につきまして、地域協働課の土井さんと三条地区まちづくり委員会の力安さん、相原さん、末永さん、檜谷さん、川崎さん、山中さん、山上さんからご発表いただきます。それでは、よろしくお願いいたします。

○土井さん：ご紹介ありがとうございます。

皆さん、こんにちは。呉市役所地域協働課の土井と申します。

呉市では、自治会をはじめ、様々な地域団体が地域の活性化を支えてきました。しかしながら、人口減少・少子高齢化が進む中で、これまでのような活発な地域活動を行っていくことが難しくなってきたという強い危機感を抱くようになりました。

元気な地域を維持、発展させていくためにはどうしたらいいのか。いろいろな道筋がある中で、我々呉市は地域協働によるまちづくりを選択し、これを積極的に展開していくこととしました。

呉市が描く地域協働のイメージ。それは、昭和40年代以前の地域コミュニティを中心とした地域自治の復活です。「三丁目の夕日」という映画をご存じかと思いますが、あのイメージです。温かくて生き生きとした社会、あるいは地域のつながりや、人々の心の絆がしっかりと結ばれた社会。

この実現に向けて、我々は二つの目標を掲げました。一つは地域力の向上。もう一つは、協働型自治体への移行。

この目標を実現するための指針として、平成20年3月に、「ゆめづくり地域協働プログラム」を策定しました。地域まちづくり計画の策定支援、市民公務員の育成、地域力向上のための財政的支援や活動拠点の確保、それから人材育成です。

横断的な住民自治組織であるまちづくり委員会による、自主的で自立した地域活動を総合的、体系的にサポートするプログラムになっています。

なかでも、やはり高齢化が進むということで、地域の皆さん一人一人の当事者意識というものを高めたい、あるいは新たな担い手を発掘したい、ということでの人材育成には特に力を入れておりますし、先ほどご紹介いただきましたように、用途の定めのない使いやすい交付金を交付したり、あるいは地域の思いをとらえて的確にサポートできるような地域担当職員というものを地域ごとに複数名配置したりしています。

こういった取組を通じてまかれた地域への種が、地域の皆さんの手で、少しずつではありますが、育てられています。

例えば、身近な公共施設を、市民の皆さんの労力で整備していこうという、市民まち普請事業。地域で育った新成人を、地域の大人が総出でお祝いをしようという地域成人式の全市展開。防災訓練や、まちづくり委員会と地元企業との防災協定といった、安心・安全なまちづくり。とんどや、呉音頭などの昔ながらの盆踊りを復活させようという、地域のお宝を活かした賑わいづくり。

いろいろな取組をされておりますが、今日はその代表事例ということで、地域のお年寄りの居場所づくりに取り組まれている三条地区まちづくり委員会の力安さんほか委員の皆さんに、取組事例を発表していただきます。

○力安さん：私は、昨年9月に地域の古い商店街の一画を利用して、ふれあい広場をオープンさせました力安、そして仲間のボランティアの皆さんです。よろしく願いいたします。（拍手）

簡単な紹介をさせていただきます。きっかけは、近くにあった長く放置されていた空き店舗が貸し出されることになったことに始まりました。私がかねてから、高齢者だけでなく、子どもたちも誰でも自由に出入りでき、そして自然な交流が図られる場所をつくりたいなと思っておりました。

そして、それが地域の活性化に少しでも役立つことができればもっとうれしいのにと思っておりましたが、ちょうどこの場所が私の思いにぴったりの場所だったわけです。

そこで、たまたま同じ思いを持ったこちらの相原と二人でプランをつくり、早速行動に出ました。そして年度途中ではありましたが、幸いまちづくりのための助成金の一部を、家賃のみ応援していただけたということが決まりました。

そして、店舗のオーナーさんから、こういうために使うんだからということで安く借り受けることができましたが、その代わり現状そのままということで、それはもう、ちょっと手のつけられないような状態で借り受けました。しかしながら、活動費というのが全くありませんでしたから、ごみの掃除、分別作業、そういうところから入りまして、そのうち男性の力も入ってきまして、とにかく安く早く簡単に、きれいに見えるから白ペンキを塗ろうということで、とにかく43㎡あります空間を真っ白のペンキで、せっせと約1カ月かけて仕上げていきました。

その間、地域の方々が関心を持ってこられまして、全ての備品、コップからソファに

至るまで、ここに写っているものすべてですが、提供していただくことができました。そして1カ月いたしまして、心温まるふれあい広場が完成いたしました。

今では平均年齢70歳のボランティア18人が朝10時から夕方4時半まで、日曜以外の毎日、三交替で常駐しております。お茶を無料でサービスするほか、希望の方にはドリップコーヒーやすり氷などを100円で提供しております。それが私たちの唯一の活動資金であります。

日ごろは休憩、あるいはおしゃべり、囲碁や将棋、子どもたちは、古い昔のゲームも置いてありますので、ゲームや漫画本で遊んだり、自由に使ったりしております。そして、たくさんの人に声をかけるために月に数回は小さな行事を行って、皆さんに認識をしてもらっております。

そして年に2回大きな行事といたしまして、冬は大人も子どもも、主に高齢者の方でしたが、子どもも呼び込みまして大きなクリスマス会ができました。

この7月の終わりには、念願だった地域の夏祭りを30年ぶりに私たちの力で復活させました。ささやかではありましたが、小さな地域に300人余りの人が参加して、盆踊りや夜店、そしてボランティアの演奏などをたくさん楽しんで、とても喜んでいただけました。

資金力も組織力もない、微力な私たちが熱意だけで始めた活動でしたが、地域の皆さんの助けとボランティアの支えでここまで進んでまいりました。これからはゆっくりと息の長い活動になりますよう、みんなで助け合っていきたいと思っております。

もし、呉に来られることがありましたら、どうぞボランティアの素敵な笑顔に会いに来てやってください。

ありがとうございました。（拍手）

〇土井さん：このような地域の特色に応じた取組が、市内28のまちづくり委員会で、毎年200以上も企画されています。今後、地域の自立度がさらに高まるよう、地域の実情に応じた支援や地域担当職員のレベルアップを図っていきたいと思っております。

発表は以上です。ご清聴ありがとうございました。（拍手）